

—お 知 ら せ—

日本気象学会事務局に在庫の刊行物は次のとおりです。ご希望の方は事務局にお申し込み下さい。
なお価格は送料を含む値段です。

刊 行 物 の 名 称	発行年月日	頒布価額 円
気象学への手引	1971.2.20	150
Proceedings of the WMO/IUGG Symposium on Numerical Weather prediction in Tokyo November 26~December 4, 1968	1969.3.	1,000
地球大気開発計画研究会議 (GARP) 報告 ストックホルム 6.28~7.11 1967	1968.1.	100
新しい気象学 (第2回夏季大学テキスト)		400
同 (第3回 同)		400
同 (第5回 同)		500
構造物の耐風に関する第1回シンポジウム論文集 (1970)	1970.5.	1,500
FIRST Symposium on Wind Effects on Structures in Japan (1970) (Summary of Papers)	1970.5.	180

気象研究ノート

巻 号	通巻	掲 載 論 文	頒布価額		
			会 員	書 店	非 会 員
			円	円	円
4-1	31	天気予報に対する Verification II (鈴木) 高度解析法 (渡辺) 季節予報 (高橋ほか)	150	180	200
2	32	Development Theory (荒川) 数値予報その3—Charney の数値予報 (渡辺) 気象学研究と天気予報の合流調整についての討論会紹介 (吉武, 白田) 天気予報に対する Verification 補遺 (鈴木)	140	170	190
3	33	降雹 (関谷) 昭和28年2月の予報検討会 (杉本) 乱流と気象 I (小倉) 予報検討会記事 (朝倉ほか)	190	230	250
4	34	乳流と気象 II (小倉) 500mb 平均天気図及び偏西風プロフィールと天気との関係 (鯨井)	160	200	210
5	35	群論と天気予報 (渡辺) 水理気象シンポジウム—降水量の予報 (高橋) 同一水理気象の諸問題 (石原) 同一水理気象業務 (作間) 台風進路予想のワークシート (斉藤将) 寒波 (安井) 半月平均天気図と気象変化との関係 (高橋)	150	180	200
6	36	数値予報委員会の発足 (K.S) Barotropic モデルによる数値予報 (大山) 超高層大気物理, 上 (堀内)	140	170	190
5-1	37	超高層大気物理, 下 (堀内) 東京の風一局地気象研究の一例 (渡辺) 中央アジアの天気型 (倉島) 調和係数 (小河原ほか) TAC (S.K) 研究者と技術者 (S.K) Henry Helmclayton (朝倉)	150	180	200
2	38	豪雨予報 (斉藤将) 昭和28年6月下旬北部九州の大雨 (竹永) 尾鷲の豪雨機構 (藤原ほか) 豪雨文献抄 (勝井) 降雨に関する最近の研究 (奥田, 朝倉) レーダーによる気象観測 (柳沢)	140	170	190
3	39	凶作特集号 日食, 月食と凶作との関係 (高橋) 長期予報と水稻の豊凶 (小笠原) 季節予想に関する問題 (守田) 今後の季節予報の研究 (朝倉) 大気オゾンと気象現象 (川村) その他	140	170	190
4	40	数値予報特集号 プリンストングループの数値予報 (岸保) 極東における数値予報の予備報告 (N.Pグループ) 順庄モデルによる各層および大気の立体構造と天気との関係 (田中ほか) その他	140	170	190
5	41	数値予報特集号 2-パラメーターモデルによる数値予報 (大山) 準2重フーリエ級数を用いたの数値予報 (窪田) Long range forecasting に対する一つの試み (岸保ほか) 2重フーリエ級数を用いたの数値予報 (岸保ほか)	140	170	190
6-2	44	高層解析法, 2 (毛利) 垂直安定度を調べるスライスメソッド (渡辺) 大気の周期性 (朝倉)	140	170	190
3	45	予報技術に関する2, 3の考察 (斉藤) 中緯度循環試論 (倉嶋) 気候の永年変化1 (荒井)	140	170	190
6	47	気候の永年変化2 (荒井) サーミスターについて1 (林) 850mb等圧面天気図の解析とその利用 (田原) 気象技術における数学 (渡辺)	90	110	120

7-2	50	降水生成論の概観(今井) 暖かい雨(駒林) 約30kmまでの上層の総観的知見(荒川) 発散解析法1(渡辺)	140	170	190
	4	52 季節予報1(高橋) 渦度を導入した上層風予報(宇津木)	140	170	190
	5	53 季節予報2(高橋) 太陽活動と気象(朝倉) 発散解析法2(渡辺) 守田氏法“暖冬と夏季気温”の一検討(檜山ほか)	250	300	330
8-3	56	Nephologyにおける二, 三の問題(篠原) 情報理論とその応用1(鈴木) FACOM 128(窪田)	140	170	190
	4	57 太陽面現象から地球上の気象現象まで(関原ほか) 情報理論とその応用2(鈴木) 天気解析の概念(加藤) 仙台における数値予報の応用(草野)	250	300	330
9-3	60	航空と気象(東京航空気象台)	360	440	470
	4	61 最近の大気大循環論(荒川)	370	450	480
10-1	62	気象学におけるアイトープの役割(石川) 海流理論の概観(Henry Slommel) 気象英文用例抜萃集—1(渡辺)	140	170	190
	2	63 スペクトルの概念による大洋の波の予報(紹介)	150	180	200
	3	64 水文気象 特集号	240	290	320
	4	65 中国をめぐる極東環流(田辺) ソ連邦の長期予報事業(須田) 気象英文用例抜萃集—2(渡辺)	170	210	230
	5	66 最近の霧の研究とその展望(黒岩, 大喜多)	140	170	180
	6	67 気候学 特集号	380	460	500
11-1	68	地上気象観測の最近の進歩 特集号	150	190	200
	3	70 シンプソンの気候変動論(土屋) ドイツの1か月予報(須田) 津波に関する最近の研究(宮崎) Riehlの熱帯低気圧発生論に対する適合性の覚え書(今田)	100	125	130
	4	71 数値予報 特集号	140	170	190
	5	72 原子力と気象 特集号	240	300	310
12-3	75	暖冷房計画と気象資料(久保) 体感温度(神山) 気象災害図説(渡辺, 荒井) 気候変動と太陽活動(高橋) 天気予報監査の方法と現状I(奥山)	250	300	330
13-1	77	現場でできる雲物理の測定法 特集号	250	300	320
	2	78 地球の熱収支(片山) 判別解析法とはなにか(鈴木) 気象資源とはなにか(渡辺)	250	300	320
14-2	80	気象器械 特集号	400	500	520
15-2	83	農業気象 特集号	170	210	220
	3	84 航空気象 特集号	380	460	500
	4	85 工業気象 特集号	200	240	260
16-1	86	西日本の降雨 特集号	550	660	720
	2	87 季節変化と季節風(須田) 豪雪(福田) 北陸豪雪の研究(金沢気象台) 降雪のメソ気象解析(力武) 冬季若狭湾に形成される不連続線(井野) 災害を起す気象要素の基準(正務, 船津) 気象災害の純粋理論(渡辺) 河川上流域の水収支の解析に関する研究(正務)	360	440	470
	3	88 サブミクロン・エアロゾル(三崎) 大気光学および放射的性質からみたエアロゾル(嘉納) 降水の電気(孫野) 雷雲の電氣的構造(田村) 雷から出る電磁波(石川) 雷雲の電荷生成(菊地) 電光放電の機構(北川) シューマン共振振動(柳原) 地表附近の大気電気(近藤) 高層大気の電気現象(内川) 宇宙空間電気現象(大林, 村田)	360	440	470
	91	気候変動の機構に関するシンポジウム 特集号	210	260	280
	92	南北両半球大気間の相互作用(飯田) 成層圏, 中間圏の温度, 風の状態(中村, 清水) 気象衛星に関する会合	380	460	500
	93	雲物理に関する 特集号	270	320	360
	100	回顧と抱負 特集号	700	890	970
	101	オホーツク海の海上気象	450	540	590
	103	気象力学における数値シミュレーション	490	590	640
	104	気象制御, 気候改造	450	540	590
	107	環境汚染 特集号	600	720	780
	108	J. H. TYTMAH によるメソ気象学的過程の非線型理論序説	590	700	750
	109	対流に関する研究の現状と問題点	810	960	1,040

(以下142ページにつづく)

T. Asai: Thermal instability in a parallel flow with vertical and horizontal shears.

VI. Computational Problems

Y. Sasaki: Low-pass and band-pass filters in numerical variational optimization.

M. Magata and K. Nishida: On the computational errors in numerical experiment.

VII. Ekman Layer

A. Eliassen: On the Ekman layer in a circular vortex.

VIII. Climatology

H. Wada and E. Kitahara: A proposal of classification of 500-mb pattern over the northern hemisphere.

T. Yamamoto: On the nature of the climatic change in Japan since the "little ice age" around 1800 A.D.

IX. Synoptic Studies

T. Fujita: Application of ATS III photographs for determination of dust and cloud velocities over the northern tropical Atlantic.

K. Mohri: An example of the cold dome in early summer over the North Japan.

C. Magono: On the localization phenomena of snowfall.

X. Cloud Physics

K. Isono and K. Iwai: Growth rate and habit of ice crystal in air at low pressure.

A. Ono: Some aspects of the natural glaciation process in relatively warm maritime clouds.

XI. Miscellaneous

G. Yamamoto, M. Tanaka and K. Arai: Secular variation of atmospheric turbidity over Japan.

Y. Nakagawa and P. Swarztrauber: A numerical study of hydrodynamics of the solar cycle.

K. Hidaka: Deformation of ocean surface induced by winds.

(以下 140 ページのつづき)

気象学会在庫刊行物

Papers in Meteorology and Geophysics

(気象研究所研究報告)

頒布価額各号 1 部 600 円

巻号	巻号	巻号	巻号	巻号	巻号
7-1	9-2	13-3, 4	16-3, 4	19-1	21-3
2		14-1	17-1	2	4
3		2	2	3	22-1
4	11-2, 4	3, 4	3	4	2
8-1	12-1	15-1	4	20-1	
2	2	2	18-1	2	
3	3, 4	3, 4	2	3	
4	13-1	16-1	3	4	
9-1	2	2	4	21-1	